

2010 Vol.11 THE BSSC JOURNAL 通巻11号 2010年6月11日発行



びわこ成蹊スポーツ大学新聞 Biwako Seikei Sport College

THE BSSC JOURNAL

びわこ成蹊スポーツ大学の「今」を伝える ©びわこ成蹊スポーツ大学新聞編集部 発行=びわこ成蹊スポーツ大学メディア研究会 〒520-0503 大津市北比良1204番地 <http://www.bsscjournal.net/>

緑豊かな 比良キャンパスにようこそ

- ① 規正正しい生活を送る
びわこ成蹊スポーツ大学が迎えた今年の新入生は322人。4月2日の入学式を終えたフレッシュマンは、5日から開学以来の伝統行事になったフレッシュマンキャンプを体験した。湖畔にテントを張り前半8クラス、後半8クラスに分かれてASE活動、クラス別レクリエーション、登山、キャンプファイアーなど3泊4日の自己鍛錬に挑んだ。フレッシュマンキャンプは「**規正正しい生活を送る**」
- ② 仲間(他人)のことを考えて行動できる
環境に配慮した生活を送ることが出来る
- ③ 自然のなかで過ごすためのキャンパススキルを身につける
という4本柱を掲げ、新入生にとっては心身鍛錬の第一関門。テレビもない、携帯もない、ガスも電気もない生活体験で322人が何を考え、何を感じたのか。「フレッシュマンキャンプで私は考えた」の課題レポートから拾ってみた。

声を掛け合い、励ましあつて、**目指せ頂上へ**

フレッシュマンが集う



フレッシュマンキャンプで強く印象に残ったプログラムが2つある。ひとつは青柳浜であったASE活動だ。初めは何をするのか、まったく見当がつかなかったが、仲間とゲームをするうちにその意図や趣旨がわかるようになった。

フレッシュマンキャンプを終えて、大きままとめると4つのごとを学んだ。1つ目は協力。食事づくり、テント設営、ASE活動、登山、撤収作業など仲間との信頼、責任感が生まれ、知恵や意見を出し合うことで積極性も身についた。2つ目はコミュニケーション能力が向上した。携帯電話を預けられ、会話でしかコミュニケーションがとれなかった。携帯やメールなんかより直接話した方が気持ちも伝わりやすく、仲よくなりやすい。話すことの中でも基本の「あいさつ」がもっとも大切だと思った。3つ目は普段の生活がいかに豊かなかがわかったこと。キャンプにはテレビ、インターネット、電話、ラジオなどあって当たり前のもので、いかに便利な生活をしているのか、と思うと、その便利さがかえって困ることになると感じた。4つ

どのゲームにも当てはまるのは班のメンバー全員が助け合って協力し、知恵もみんなを出し合うこと。メンバー一人ひとりの個性を理解しそれを活かすことも大切。「ひとりではみんなのために、みんなは一人のために」の精神を学んだ。これはサッカーなどチーム

ムスポーツにも活かせる。もうひとつは登山からだ。険しい山道に苦しめられ、強風や寒さも辛かった。それでも山頂に着いたとき、あきらめずによかったと素直に思った。人生も同じ。厳しいことや辛いこともあるが、負けずに1歩1歩進むことにより、山頂のような高いところに到達できる。大事なことは何事もあきらめずに続けること。大学で充実した4年間を過ごすためには、何事もあきらめないことを誓った。
(1年 久保田高行)

目は親へのありがたみである。いつも食事をうけてもらい、洗濯をしてもらい、さまざまに面で支えてもらっている。キャンプで規則正しい生活を送り、環境に配慮した生活を過ごし、キャンパススキルを身につけることができた。キャンプに携わった先生、補助してくださった先輩方、ありがとうございました。
(1年 稲生泰章)

え、みんなが自ら学ぼうという気持ちでまわったから。登山も険しくても簡単に登っていきけるものではなかったが、班のみんなが声を掛け合ったり、助け合ったりが自然にでき、無事に戻ってきたときの達成感をみんなで感じる事ができた。フレッシュマンキャンプは確かに不安だらけだったけど、最初から何もない状態ですら、この意味があり、これからの大学生活における基礎になると思った。キャンプで学んだ自ら一歩を踏み出していくことを活かして大学生活の幅を広げていきたい。
(1年 内藤亜沙奈)



ASE活動は仲間の絆を深め合う



なれぬ手つきで、みんな助け合ってテントを張る



1万米競歩で快進撃のびわスポ勢。優勝した丸尾(右)3位内田(手前)

躍進 陸上部 待望の1部昇格

より速く、より高く、より強く

開学以来の悲願だった陸上部男子が関西学生対校選手権の1部昇格を決めた。

第87回関西学生対校選手権は5月6日の男子ハーフマラソンを皮切りに5月14、15、20、21日の日程で熱戦を繰り広げ、男子2部のびわスポ勢は、1万米競歩で1年の丸尾知司が44分46秒93で優勝し3位に内田恵治(3年)が入るなど、ラック種目で活躍が目立ち、対校得点争いで2部準優勝を決めて1部に昇格した。苦節8年。先輩が挑み続けた1部の壁に今年は部員107人の総力を結集して大会に挑んだ。快進撃の口火を切ったのは、女子棒高

跳びに出場したの場通(3年)だった。9人が出場したが、的場はただ一人、3m40からスタートし2回目にクリア。この段階で優勝争いは3人に絞られ、的場が3m50を1回目でクリアした後、ライバル二人はこの高さを跳べずに失敗。優勝を決めた女王は、3m60を2回目に成功させ、さらに10センチ上げた3m70に挑戦して3回目にクリアした。この優勝に男子勢がハッスル。1万米競歩の1、3位と上位を占め、100回は塩山昌弘が10秒86で2位に入った。

たほか400では田中竜太、800でも佐佐祐貴が2位に入るなどコンスタントに対校得点を重ねた。また、フィールドでは砲丸投げで南部祐斗が自己ベストを大幅に更新する12.49で4位に入った。2日間で争う10種競技でも森本隆太が2位、小早川理が4位、池田佑平が5位に食い込む合計16点をあげて、混成の部総合得点で初優勝するなどこの種目にも平均した強さを発揮した。



女子棒高跳びで圧勝した的場

2年連続で西日本大会の舞台 女子ソフトが3位の健闘



西日本大会出場を決めて全員集合

今回のリーグでは3部3位。昨秋のリーグと同じ結果に終わった。1年前の春、先輩たちが築いた2部2位、1部昇格という目標には惜しくも届かなかった。しかし、このチームになってから丸一年、何も変わらなかったわけではない。個性が強いメンバーが揃ったこのチームでは、やはり衝突は避けられない。衝突したとき、自分たちで話しあい、どうにかチームをよくしようという気持ちがあったからこそ、少しずつチームがまとまってきた。飛び抜けた選手がいないため、一人の個人プレーでは、どんなチームにも勝てない。チーム全員で繋いで

1点、1点を積み重ねていくのが理想の勝ち方だ。このリーグの大きな鍵を握った大阪体育大学戦では、最初リードを許したが、すぐに反撃して取り返し、取られたら取り返す。繋いで繋いで6回に5-5の同点に追いついた。だが、追い上げムードもここまでで最終回、満塁ホームランを浴び、11-5で勝利から突き放された。終わってみれば6点の大差がついたが、今までの戦いでは、部別リーグで1部から落ちてきたチームにコールド負けすることが多かった。その教訓から今季は自分たちの課題をしっかりと認識した練習に取り組み、練

習試合も以前より積極的に行った。その成果が出て、このリーグではレベルの高いチームともいえる試合ができるようになった。

宮崎がこの8月に行われる西日本大会は、出場枠が増えたため、昨年に続き出場権を得ることができた。昨年は初戦で敗れたが、その果たせなかつた「西日本で一勝」を目標に、チーム一丸となって繋ぐプレーに徹する。みんなの合言葉は「宮崎の舞台で花を咲かせよう」。

(女子ソフトボール部主将
3年上原花奈恵)

不況知らずのびわスポ大の就職戦線 右肩上がり で 就職率 アップ

就職課調べ (2010年5月現在)

業種	人数	就職・進路先
一般企業	103	西日本旅客鉄道、ミキハウス、郵便局、但馬信用金庫、大阪トヨペット、ラウンドワン、セキスイハイム中部、スズキ自販、佐川急便、福屋工務店、スポーツ館ミツハシ、ヒマラヤ、乗馬クラブクレイン、ファイブM、アミティエ・スポーツクラブ、アルペン、つるやゴルフ、モリヤマスポーツ、リーフラス、グンゼスポーツ、ウエルネスサプライ、THINKフィットネス、フットネス21事業団
教員	58	現役：3名(大阪市小学校、滋賀県特別支援学校、学校法人大原学園) 常勤：31名 非常勤：24名
公務員	8	大阪府警、京都府警、岐阜県警、大津消防2、滋賀県警、茨木消防、高槻消防、長崎県央地域市町村消防
進学	21	京都教育大学大学院、奈良教育大学大学院、立命館大学大学院、福岡医療専門学校、滋賀医療技術専門学校、京都保健専門学校、関西医療学園専門学校、森の宮医療専門学校2、仏眼医療専門学校明治、東洋医学院専門学校、平成医療学園専門学校、日本競輪学校、佛教大学通信教育部 など

就職水河期の再来といわれた09年度の就職戦線。就職率の全国平均が90%と厳しい状況のなかで、びわスポ大の4期生は全国平均を大きく上回る97.7%の高い就職率を達成。開学以来の就職率も1期生の93.1、2期生の94.8、昨年の3期生96.8%を上回る右肩上がりでの企業人事担当者らは「不況の時だからこそ、スポーツ大学生の明るさ、バイタリティに期待している」という声も聞かれる。

4期生の就職・進路状況は、一般企業が106人は、

志望に対し就職者は144社で103人。教員採用も現役合格して3人だったが、常勤31人、非常勤が24人を数えた。警察、消防の公務員は8人で進学は大学院と専門学校を合わせて21人だった。

大学の就職活動からは「不況知らず」ともいえずうだが、3年秋から始まる就職活動に積極的に取り組む学生がふえ、またゼミ担当の教員もゼミ生の就職活動には積極的に支援していることも就職率の大幅なアップにつながっている。

08年の世界同時不況が影響を及ぼしたことは確かだと思ふ。多くの企業が「誠に残念ですが、今年度の採用を見送らせていただきます」と採用ホームページに次々と発表する。そんな状況に置かれていた私は危機感を強く感じ「働け」ということを考えて、昨秋からエントリーに備えた。3年生の10月から4年生の5月上旬までが一般的に「大手」と呼ばれる企業が採用選考を行なう期間である。その半年間でほぼ自分の人生が決まってしまうのであれば、そこに向けて念入りの準備をしなければならぬと思った。

日本の政界がどう動いて、日本の経済がどういう傾向にあるのか、不況のなかでも業績を上げている業界、企業はどこなのか、そしてそれはなぜなのか。今まで考えたことのない政治や経済、国際社会といった分野に目を向けた。そして自分一人の考えではなく多くの

大学生の就職活動に人に意見を求めた。企業で働く人々から身近な大学の教職員の方々にまで、「日本の社会で働け」ということを実践している人たちの声を聞くこと。いろいろな情報、知識を得ることが大切だと考えた。自己分析をして自分を知る。企業研究(業界研究)をして社会を知る。そして社会人としての一般常識。この3つはエントリーが始まる前にしっかりと準備することが大切である。昨年の状況(内定者の8割が年内から活動を開始)から見ても早く行動を起こすことが良い結果を招いている。「買い手市場」不景気の就職活動は、その開始時期の早さが内定の成否を左右するようになってきている。だからこそ、就職活動というのは、これから社会に出る自分と真剣に向き合う良い機会だと思つて、前向きに早く取り組みることが大事なのではないか。

(競技スポーツ学科 4年 吉浦剛史)

就職活動

就活には 頭と心の 準備が大事



前向きに早く取り組むことを訴える吉浦君

国際化時代へ①

WELCOME ケイトさん

豪州から初めての留学生がびわスポに



初めましてー豪州のビクトリア大から留学生第一号として来日したケイト・シルベスターさんが4月の新学期からびわスポでキャンパスライフを楽しんでいる。地域スポーツコースの海老島教授、スポーツビジネスコースの小笠原教授らが中心になって進めている国際交流事業の一環で、ビクトリア大と交流協定を結んだのを機にケイトさんの留学が実現した。

ニュージーランド生まれのケイトさんは、高校時代に姉妹交流のあった富山県に1年間の留学経験があり、富山で剣道と出会った。ホームシックにかりかかっていたケイトは、初めて剣道を見て、その気合のすごさに驚いたという彼女は、豪州で腕を磨いて4段を取得し世界選手権の豪州代表にも選ばれた。大学で社会学を専攻し、博士論文として「日本女子の剣道」に取り組んでいる。論文研究が留学の大きな目的だが、びわスポではサッカーの実技や野外スポーツ、スポーツマ

びわスポ生はエネルギッシュと話すケイトさん

国際化時代へ②

スペインのサッカー文化を肌で感じる 留学生活



世界の頂点に立つといわれるスペインのサッカーリーグ。なかでも「芸術的サッカー」といわれるFCバルセロナに魅せられて昨年からバルセロナに留学した。中学、高校、びわスポ大でもサッカーに熱中したが、バルセロナほど市民みんながサッカーに燃える街はないだろう。

私のホームステイ先は、FCバルセロナでアイスホッケーの用具係りとして働くホセ・ルイスさんの家庭である。一家を挙げてバルセファン。ルイス家には代々伝わるホームスタジアム・カンテノワの指定席(シオリ会員席)があり、毎週末のリーグ戦はルイス家と一緒にはサッカー観戦に出かける。観客を魅了するスペクタクルなプレーに一喜一憂するが、みんな目が肥えていて、下手なプレーには応援するバルサの選手であろうと容赦なくブーイングを浴びせる。逆にメッシやインiesta、チャビといったお目当てのスター選手が、すばらしいパス、シュートを見せるとスタジアム全体を揺るがすような拍手がわく。日本のリーグでは、プレーもさることながらまずお目にかかれない光景で勝利すれば、翌日の地元の新新聞は7割ほどスペースを割いてバルサを絶賛する。ルイス家もそうだが、大学や町のBAR(居酒屋)で出会う人たちの話題はほぼバルサのサッカーである。サッカー文化でひとくくりするのは、簡単だが、日本人にとってはバルセロ

びわこ成蹊スポーツ大学

〒520-0503 大津市北比良1204番地
【代表】TEL:077-596-8410 FAX:077-596-8419 E-mail:jim@bss.ac.jp



JR比良駅から線路沿いに徒歩約15分。JR京都駅よりJR比良駅まで約40分。

ナで見聞きし、実際に触れるサッカーは、文化を通り越して市民の生活の奥深くまで入り込んでいる。文化というよりもサッカーが産み出したコミュニティのような感覚だ。

留学8ヶ月の私の生活は、午前中がバルセロナ大学の語学コースでスペイン語を学ぶ。ドイツやオランダ、中国、韓国、米国など各国の若者が初級のクラスで学ぶ。長い昼休み(シiesta)をはさんで午後4時ごろから今度はスペインの歴史、美術などの講義がある。言葉がわからなくても、先生はお構いなしに授業を進める。初めのうちはチャンピオンカンフンだったが、少し言葉がわかるようになると興味もわく。睡眠との闘いを終えた講義のあとは、バルサや同じプロチームのエスパニョールの練習場に足を運ぶ。ここでは6歳から18歳までの各カテゴリーの選手たちがプロを目指して英語を学んでいる。

びわこ成蹊スポーツ大学 競技スポーツ学科 樋口健策